

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπια	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しい介護への転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
総括			
22年目を迎えた2017年度は、社会福祉法人光朔会オリμπιαにとって、大きな意義のある1年であった。			
高齢者事業、保育事業、社会事業の3つの部門がそれぞれの場において求められる働きを継続するとともに新たなチャレンジができたことは、「全ての人の希望のために」建てられたオリμπιαの働きをより強めることとなった。			
また、介護・保育の世界において、近年最も重視されるサービスの質であるが、地域密着型サービス第三者評価をはじめとする各種外部評価において、今年度もオリμπιαの取り組みが非常に高く評価された。これは、各部において、ひとりひとりの利用者・園児のために、質の向上に積極的に取り組んできた成果の表れである。			
更に今年度は、人材育成に注力し、外部団体と協働して研修を開催したほか、外部の研修に講師派遣を行うなどオリμπια内部のスタッフに留まらず、地域活動におけるリーダーとなることのできる人材の育成に貢献した。			
この1年を無事に乗り切ることができたことは、これから立ち向かわなければならない数々の試練に対する自信と備えになるであろう。我々の経験をもう一度整理し、2018年度に向かって前進していきたい。			
運営評価			
1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 2017年度は、高齢者事業・保育事業・社会事業の各部門の働きを一層充実させることができた。これにより「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させた。			
2. 新しい介護への転換 [小規模] : ユニットケア、グループホームケアを徹底し、入居者・利用者おひとりおひとりがこれまで通り誇りを持った暮らしを安心して続けていただくことを可能にするケアの提供を行うことができた。			
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπια福祉塾講座、認知症高齢者や発達障害への理解を深めるための講演会、Salon de l'Olympiaなどを開催することにより、地域福祉の啓発に貢献した。			
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・大阪大学・神戸国際大学・RC行政・社会福祉協議会・医師会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげることができた。			
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深めた。			
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努めた。また、実習生を積極的に受け入れることにより、社会的貢献を果たすことができた。			
7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、スウェーデン研修を実施した。また香港・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢を分析する機会を持つことができた。			
8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努めた。			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 落 昌之
事業目標	1. 安定した財政基盤の確立をもとに、より質の高いサービス提供を行う 2. 幅広い分野に精通した人の育成と、法人内外におけるリソースパーソンの発掘 3. 多様化するニーズに応える新たなチャレンジ		
総括	<p>特養部門の財政改善を図り拠点での収益の確保に努めた一年であった。これまで特養利用者の定員に対して常に2～3名少ない利用人数であり、空きベッドをショートにて埋めていた状況。業務効率的にも悪く悪循環であったが、入所定員50名を確保できたことにより安定した収益の確保が図れた。通所介護は平均29.6名の利用人数であり、居宅介護支援についても、全国平均ではマイナス27%の赤字となっているが、中央居宅は収支ベースで黒字になっているなど、各部門が予算を意識した運営を心がけ、収入の確保を図った結果、拠点ベースで良い結果を残せた一年であった。スタッフについては退職者数に対して入職者数が下回り、スタッフの確保に苦心して、派遣人材で補っている等、人材の確保が優先課題となっている。</p>		
事業評価	<p>1. 安定した財政基盤の確立をもとに、より質の高いサービス提供を行う:通所介護についてはスタッフも安定して定着しており、サービスの品質が高く、利用者から高い評価を得ている。満足して利用頂いていると担当ケアマネジャーも安心でき、新たな利用者を紹介頂けており、常に高い利用率となる要因となり収益の確保に努める事ができている。居宅及びあんしんすこやかセンターについても地域との係わりを充分に行っている結果、利用者は満足したサービス提供を受けている。特養部門に関しては、入所定員の確保及びショートベッドの入所待機でのロング利用を行う等で安定したベッド管理を行い収益の改善に努めた。</p> <p>2. 幅広い分野に精通した人の育成と、法人内外におけるリソースパーソンの発掘:特養生活相談員の業務を見直し、介護保険法及び老人福祉法等の法令根拠を基にスキルアップを図った。</p> <p>3. 多様化するニーズに応える新たなチャレンジ:特養全体の業務について再構築を図り、本体の運営を安定する事を優先したため、新たなチャレンジはできなかったが、今後は取り組んで行き、ニーズにも対応して行きたい。</p>		
研修	<p>[内部]新入職員研修・身体拘束虐待防止研修・事故防止研修・感染症予防研修</p> <p>[外部]高齢者虐待対応能力向上研修(初級編・上級編)・認知症ケア研修</p> <p>特定行為従事者養成指導者研修・特定行為従事者養成研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[実習]神戸松蔭女子大学・武庫川女子大学(栄養)・介護等体験</p> <p>[ボランティア]神戸龍谷高校・地域住民(おりんぴあ食堂)・繕い物ボランティア(神戸聖愛教会)</p> <p>イベントボランティア(各サークル)</p>		
行事	<p>おりんぴあ食堂(全10回)・オリンピア夏祭り(特養・デイ)・保育園児との交流会(オリンピア都こども園ニコラス保育園等)・遠足(デイ年2回)・サテライト遠足・音楽療法(毎週土曜日)・忘年会(デイ)</p>		
取得資格	特定医療行為従事者(3名)		

事業報告

2017年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. 理念を具体化した、質の高いサービスの提供 2. 安定した財政基盤の確立 3. 地域ニーズに応えられる施設づくり 4. 多種多様な場面に対応出来る人材育成				
事業評価					
<p>1. 個人個人の心身状況に合わせた、日常生活沿った個別サービスの提供を行い、入居者様、利用者お一人お一人に合わせたケアプランの策定とサービスの提供ができた。また、身体拘束や高齢者虐待等に対する意識付けが弱かった事から、拘束・虐待予防委員会を見直し、研修を充実したことで、スタッフ全員に拘束・虐待予防への意識付けが出来る事ができた。</p> <p>2・3. 前年度は、入居者リストの整備の遅れや先を見越した対応が出来ていなかったこと、退去後の新規入居に時間がかかり無駄に空床を積み重ねることが多かったが、今年度は、待機者リストの作成や退去後の、迅速な対応で空床期間を短くする事ができた。ショートステイの新規利用者を増やすことが出来ず地域のニーズに応えられず安定した財政基盤の確立には至らず不本意な結果となってしまった。</p> <p>4. 年間を通して、人材確保に悩ませる年度であったが、喀痰吸引の研修など行い、スタッフ個々のスキルアップに貢献しモチベーションのアップに繋げる事が出来た。また、EPAの人事育成にも力を入れてきた事で、質の高い人材確保が最小限の離職者で済む事ができた。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピア中央	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者数7,710人(30.0人/日)を目指す 2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める 3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる				
事業評価					
<p>1. 年間利用者数7,710人(30.0人/日)を目指す:年間利用者数は7,616人(29.6人/日)と、目標には届かなかったものの、年間を通して大崩れすることなく、安定した数字を残すことが出来た。長期利用の方のご逝去や入院が多かったが、新規利用者をコンスタントに獲得出来た。</p> <p>2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める:今年度は初めて、一人も退職者を出さずに一年間を過ごすことが出来た。新加入したスタッフも順調に業務に慣れ、安定した状態で進むことが出来た。スタッフが安定したことにより、接遇や介助方法についての勉強会の機会もしっかり持つことが出来、ケアについての意見交換も密に行えた。</p> <p>3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる:他のデイサービスもお使いの方が、オリンピア一本にして下さったケースも多かった。また、各ケアマネジャーとも連絡を密に取り、利用者様の状態の変化に即座に対応することが出来た。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業評価					
1. 財政基盤の確立: 要介護者プラン件数年間1,047件、要支援者プラン件数年間170件となった。 要支援者プラン件数は減ったが、要介護者プラン件数が増えた。					
2. 質の高い居宅介護支援: 月1回は自宅訪問し、状況把握、モニタリングを行った。住み慣れた地域で生活できるように支援。介護保険サービス以外のサービスを組み入れたプランを作成した。					
3. 地域、他事業所との連携: 圏域のあんしんすこやかセンターからの依頼は連携を取りながら対応した。困難ケースの相談もありその都度、対応。他事業所と連携を図る事でスムーズなサービス調整を行う事ができた。					
4. 介護支援専門員の資質向上: 研修に参加し、情報収集する事で資質向上が図れた。研修記録を閲覧する事で事業所内での情報共有ができた。					
5. 認定調査員の資質向上: 年間702件の認定調査を行った。認定調査員研修にも参加し、資質向上が図れた。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談のできる窓口として認知・評価される。 2. 高齢者と地域をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				
事業評価					
1. 担当兼域内の地域行事への積極的参加及び支援をした。給食会や喫茶会、夏祭りやバザー、防災訓練等に参加して、高齢者介護相談や権利擁護などの情報発信、フレイル予防啓発等をおこなった。 また、毎月、各種事業所約130カ所を訪問し、資料配付や顔の見える関係づくりを継続し、センター周知に努めた。					
2. 地域ケア会議を平成29年6月に開催し、認知症高齢者のケアに関して、理解とその方法についての意見交換をすることができた。					
3. 各地区の民生委員やボランティアとの連絡協力をすすめ、高齢者介護に関する勉強会を行ったり、認知症キッズサポーター養成講座の開催協力をしていただいたりした。					
4. 高齢者がつどえる場所として、「大日つどいの場リリー」の開催支援や高齢者健康麻雀倶楽部および「うたごえ喫茶」等の開催支援を継続した。					
5. 総合事業に関して、利用者及びその家族の相談・受付やケアマネジャーの質問に対応した。					

社会福祉法人光朔会

施設	グループホーム オリμπピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 地域との交流 3. 職員の資質向上「オリμπピア灘の理念・3つの約束」の実践 4. 財政基盤の確立		
総括	<p>オープンから15年目を迎えたオリμπピア灘は、グループホームと共用型のデイサービスが一体となり、住み慣れた地域での生活を継続していただけるための拠点として活動してきた。利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切にすため、「オリμπピア灘の理念」と「オリμπピア灘の3つの約束」をケアの基盤として実践し、生活の質の向上を目指した。地域行事への参加、生活の中での地域との関わりを持ち、運営推進会議で報告や話し合いの場を持った。また、地域住民の見学を積極的に受け入れ、相談を受けたことにより入居に至るケースも作れている。オリμπピア灘が地域の拠点として活動していけるように、地域との関わりを強め、入居待機者を確保していくことで財政基盤を安定したものとしている。</p>		
事業評価	<p>1. 利用者の生活の質の向上:ご利用者が「生活の主人公」である法人理念の元、おひとりおひとりが、その人らしく生活をするお手伝いをケアの基本として努めた。日常の「したいこと」「できること」を的確に把握し、職員間での共有を図るとともに、「沖縄旅行」などのオリμπピア灘だからこそできるチャレンジにも挑戦していただいた。</p> <p>2. 地域との交流:地域住民等の見学を積極的に受け入れ、グループホームというサービスの枠に収まらず、地域の認知症ケアの拠点として、地域密着活動を行った。近隣施設の運営推進会議参加、圏域のあんしんすこやかセンターとの情報共有を行い、法人の取り組みを地域へ啓発した。</p> <p>3. 職員の資質向上「オリμπピア灘の理念・3つの約束」の実践:法人理念を職員全員が確認し、目標とする指針を統一することで、キャリアに合わせた研修や学びを実践した。</p> <p>4. 財政基盤の確立:日々の体調管理、早期の通院を心がけるとともに、広報活動を通じて待機利用者の獲得に努めた。適切な収支差額を意識して、各支出の見直しをしている。</p>		
研修	<p>[内部]新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・認知症ケア感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・スウェーデン研修</p> <p>[外部] 介護支援専門員従事者研修・救命講習会・コンプライアンス研修(神戸市主催)</p> <p>LD理解のための基礎と実践講座・認知症介護実践リーダー研修・認知症介護実践者研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学]居宅介護支援事業所、入居希望者の見学受け入れ・民生委員</p> <p>デイサービス体験利用の実施・オリμπピア岩屋、住吉による清掃</p> <p>[実習]グリーンケア研修・トライアルウィーク・オリμπピア篠原職員</p> <p>[ボランティア]オリμπピア都こども園・オリμπピア北保育園・ワーフチェロカロテット・畑プロジェクト</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・ご家族懇談会・ご家族懇親会・消防設備点検・第三者評価・オリμπピア都こども園、神戸北保育園交流会・BBQ・Salon de l'Olympia Nada(チェロコンサート)</p> <p>雛祭り・イースター・ハロウィン・クリスマス(礼拝・パーティー)</p> <p>外出(花見・飲食・ドライブ・初詣・沖縄・どうぶつ王国・美術館・お花見・コンサート)</p>		
取得資格			

事業報告

2017年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業評価	<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:法人理念である「生活の主人公は利用者ご本人です」を実践していくために、定期的なカンファレンスを行い、その人毎に理念に沿ったケアができているかを振り返り、目標を定めながらケアプランを作成、実践した。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:職員ひとりひとりが、それぞれの得意分野、不得意分野を補い合えるようにチームとしてフォローできる環境を構築した。ユニットリーダーを中心に、ご利用者とスタッフが1つのユニットとして成長していけるように課題解決に努めた。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:見学者の受け入れを積極的に行い、入居希望者や介護支援専門員等、多くの見学者が来訪した。近隣施設の運営推進会議参加、あんしんすこやかセンターとの情報共有を行い、地域の認知症ケアの拠点となるための活動を継続してきた。</p> <p>4. 財政基盤の確立:安定した収益を確保するために、収入確保と適切な支出となるように努めた。日々の体調管理とともに、早期の通院を心がけ、病状への早期治療を行うことで悪化を防ぐように対応した。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業評価	<p>1. サービスの質の向上:共用型のデイサービスであることから、グループホームとの利用者同士の協働、交流を重視した。デイサービス利用者から、グループホームへのご入居へ繋がった方がいらっしゃるように、デイサービスでの利用の延長にグループホームがあるという形を作れている。デイサービス利用者は、グループホーム利用者、スタッフとの馴染みの関係を築いていることから、グループホーム入居後も安定した状態を維持されており、デイサービス利用時と同じようにオリンピア灘での生活を維持できている。デイサービス開始前には、体験利用を推奨し、共用型デイサービスの雰囲気と活動を経験していただく。グループホームという家に、遊びにきていただく間隔を持っていただき、ご利用者の生活の習慣となるようにサービスを提供している。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年間利用、登録人数に目標を立てて、収入の安定した確保を目指した。2017年度から2018年度へ移行する際に、営業日が週7日から週5日(土日のサービスを終了)へと変化するため、土日利用だった方を平日へ移動していただくなど、ご利用者に負担がかからない形を模索、相談してきた。利用者のニーズに応えることができるサービスを提供することで、利用者の獲得に繋げていくように実践した。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括	<p>13周年を迎えた2017年度は、オリンピア兵庫にとって、大きな試練となる年度であった。2015年度に実施された介護報酬改定によるサービス単価の切り下げや、相次ぐ大規模施設のオープンによる利用者の獲得競争の激化により、各部門ともに苦戦を強いられる結果となった。しかしながら、恒例の沖縄旅行やネスタリゾート神戸への旅行を成功させたほか、Salon de l'Olympiaや「夜カフェ」などのイベントには地域の方々に数多くお越しいただき、オリンピア兵庫のアイデンティティを再確認することができた。また、研究機関や民間企業との協働プロジェクトを立ち上げたことは、今後の地域包括ケアシステムの展開の中で、オリンピア兵庫が重要な役割を担うことに繋がるであろう。アクションが人と人を繋ぎ、地域を動かしていくことができるよう、さらにチャレンジを続けていきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立: GH・SS・DS・HHの4部門が力を合わせるにより「通えて泊まれて家にも来てくれて、いざとなったら住むことができる」場として、その人らしい住み慣れた地域での生活を支えることに寄与した。</p> <p>2. 広報活動の強化: ホームページ、Facebook等を用いた従来の広報活動に加え、スタッフが自主的に連携し、ポスティング活動を展開するなど、ひとりひとりの持つ発信力を強化することができた。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 介護報酬改定による収入減に加え建物や備品の大規模な修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となったが、収入の改善および支出の見直しを実施し、次年度への備えができた。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦: 神戸国際大学との共同研究、インフォコム株式会社との新商品開発協力など、外部団体との協働により、新たなチャレンジに向けて、様々な種を蒔くことができた年度であった。</p> <p>5. 人材の育成: 従来の人材育成の取り組みに加え、スタッフによる自主的な勉強会の開催や、リーダークラスのスタッフの内部研修講師への登用など、新たな人材育成のステージに進むことができた年度であった。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・認知症ケア感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・スウェーデン研修</p> <p>[外部] 食中毒・感染症予防講習会・感染症対策講座・喀痰吸引研修3号・輝栄会</p> <p>発達障害理解のための基礎と実践講座・キャリアアップ助成金研修・福祉サービス経営勉強会</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>大阪大学人間科学部(3)・グリーンケア・トライやるウィーク(須佐野中学校5・吉田中学校3)・兵庫 県職員(4)・播磨福祉専門学校(34)・HUNGKUANG UNIVERSITY(10)・コープくらしの助け合い の会(8)教職課程介護等体験・(49)・兵庫区役所保護課(9)・ミカエル兵庫幼稚園(40)・障害者職 場実習(1)・神戸医療福祉専門学校介護福祉課(2)・インターンシップ(神戸女子大学栄養学部1)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・LIGHT IT UP BLUE・ご家族懇談会・須磨離宮公園・ヴィッセル観戦 クリスマス礼拝・お餅つき・夜 Cafe・宝塚歌劇・豆まき・あぐろの湯・ネスタリゾート神戸1泊旅行 バザー(神戸聖ミカエル教会・笠松商店街)・ルミナリエ・須磨水族園・Thanks沖縄・ANA/SNA 初詣・Salon de l'Olympia・南京町・舞子公園・ハーバーランド・ファゴット&ピアノコンサート</p>		
取得資格	介護福祉士1名、管理栄養士1名		

事業報告

2017年度

施設	オリンピック兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1, ケア理念の遵守 2, 財政基盤の確立を図る 3, スタッフの資質向上				
事業評価					
<p>1. ケア理念の遵守: パーソンセンタードケアの考えを基本とし、18名お一人お一人に合った生活を追求し、ケアにあたった。“ご利用者の希望を形に”を意識し多くの企画を立案、実行出来た。</p> <p>ご利用者の入れ替わりも多い中、ご利用者を“知る”ことに対して働きかけ、ご本人を知ることにより、持てる力を最大限に発揮していただけるようお手伝いさせて頂いた。</p> <p>2. 財政基盤の確立を図る: 2017年度の年間稼働率98%以上を達成する事が出来た。カフェの売り上げはランチの客足の低下が見られ、200万ほどとなった。しかし夜カフェ等のイベントの開催、地域の祭り、外部イベントへの出店を行い収入に繋がられた。</p> <p>3. スタッフの資質向上: 新しいスタッフの内部研修への参加、OJTの実施、リーダーは多くの企画を実行することで経験を積むことができた。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. ショートステイの役割と今後 2. スタッフの資質向上 3. 地域協働				
事業評価					
<p>1. ショートステイの役割と今後: 「選ばれるショートステイへ」という点において利用者本人、ご家族から直接感謝のお言葉を頂戴することが例年に比べて多かったように思う。他では施設利用が困難な方やショートステイのサービス自体を初めて利用される方が多かった故と考えている。しかしそれこそがショートステイの役割である。介護疲れや介護でお困りのご家族に対して救いの実践が行われたのではないかと。今後についても同様に継続して救いの場として、また憩いの場に繋げる。</p> <p>2. スタッフの資質向上: スタッフらについては内部・外部問わず積極的に研修に参加するようにしている。またスタッフには介護だけに捉われるのではなく、あらゆるジャンルの研修に参加させることで知識、教養を身に付けひとりの人間として魅力を伸ばしそれを活かせる環境作りに尽力した。推薦図書コーナーをユニット内に設け、自主的に読書習慣をつけさせるように努めた。</p> <p>3. 地域協働: 内部だけではなく施設の資源として持つ併設のカフェをご家族や興味のある方に利用していただいた。それにより社会と繋がる場として夜カフェイベントといった地域としての交流だけではなく情報発信の場としても活用してもらうことが出来た。地域の方が足を運んでいただけるオープンな場所を継続して考えていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業評価					
1. 財政基盤の確立: 2017年度は計7名のご利用者がほぼ同時期に入院長欠となり、3月末時点でも4名が継続入院状態となった。このため2016年度以上の新規利用者を受け入れたが、当初予算に対して未達となった。さらなる新規増へ向け活動を行ったが回復基調へ向けての道筋をつけるところで年度末となった。					
2. 地域との密着: 地域密着型として運営推進会議の開催。加えて、地域向けのイベントにもデイサービス利用者が参加する等、地域との一体的な運用については、達成することが出来たと評価している。					
3. 人材育成の強化: 他の事業所において受け入れ困難として、利用に繋がったケースも、その後継続利用につながる事が出来る等、一定レベルのケア遂行能力は維持出来ている。また、月次カンファレンスの機会を利用して定期的なミニ勉強会を実施することによってレベル維持を継続実施している。					
4. 新たな保険外事業への挑戦: 介護予防サポーター養成研修の上位研修となるサポーターリーダー研修へ参加申請を行ったが、一度は選外となった。しかし、講義内容、講師陣容を再評価して頂き、研修実施に結びつけることが出来た。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業評価					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践: ご利用者の在宅生活を支えていく上で、訪問介護の果たす役割は大きく、どんな状態、状況であっても対応できる力がヘルパー一人ひとりに求められる。今年度、重度の認知症の方やALS、難病の方のケアに入らせてもらうことが増えたが、その度に学ぶことも多く、試行錯誤しつつも、一定の役割を果たすことができた。					
2. 他部門との連携強化: 今年度は、他部門のご利用者がヘルパーを利用して下さるケースが増えた。スタッフ間のコミュニケーションもスムーズに取れ、早期の対応が出来た。					
3. ヘルパーの養成: 終末期・重度の認知症・難病など、さまざまなニーズを抱えるご利用者の依頼が増え、その都度、学ぶ機会の必要性を感じる一年であった。また、スウェーデン研修をはじめ様々な研修に参加する機会を持つことが出来、学びを深めることが出来た。					
4. 保険外サービスの具体化: 同じ建物内のGH、SSの方に対する保険外の通院や外出サービスは定着しつつある。今後も、バリエーションを増やししながら外部の方にも利用してもらえるサービスを提供していきたい。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. オリンピアの理念の体現 5. 利用者、家族の尊重				
事業評価					
1. 財政基盤の確立: また、法人内の各サービスに多くの利用者を紹介し、法人全体の財政基盤の確立に貢献する事ができた。					
2. 地域、他事業所との連携強化: 圏域の浜山あんしんすこやかセンター主催の「ハートネット地域会議」に年間を通して出席を継続しました。また、9月からは新しいケアマネジャーを迎え、その新入のケアマネジャーも積極的に関わり顔を出し、オリンピアの顔として活動しました。病院との関係強化にも務めました。					
3. ケアマネジャーとしての資質向上: 年間を通して、兵庫区のケアマネジャー連絡会主催の勉強会に出席を続け、業務に関する知識、技術を深めました。介護保険改定に向けての情報収集も行い、ケアマネジャーとしての仕事の幅を広げることができました。					
4. オリンピアの理念の体現: ご利用者のニーズが実現できるよう、居宅介護支援を行いました。					
5. 利用者、家族の尊重: ご利用者がどういった生活を送りたいのか、ご家族がどう介護を行ってほしいのか、ニーズの把握をしっかりと行い、望む生活の実現が達成できるよう務めました。					

施設	オリンピア都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底 2. 認定こども園教育・保育の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携		
総括			
<p>幼保連携型認定こども園に移行し、2年目となる2017年度は、子どもたちの興味・関心をより深めていくための教育内容の充実、保護者の思いに寄り添う活動内容が展開できるように力を注いだ。教育内容の充実として、3・4・5歳児は外部講師を招いての月1回の運動あそび、ECC英語活動を導入した。子どもたちにも保護者にも大変好評であるが、あくまでも認定こども園における教育とはあそび・生活の中で自ら興味・関心をもって身につけていくものであり、決して教育の前倒しではないということを保護者に発信し続けた。子どもたちの一年間の成長から保護者にも理解いただけたと思う。また、子育てサロン等を通して、年々多様化する子育てニーズに敏感に反応し、地域の子育て支援の拠点としての役割を昨年以上に果たすことができた。</p>			
事業評価			
<p>1. 幼保連携型認定こども園としての事業展開：認定こども園への1号認定としての入園希望者が多く、オリンピア都こども園の教育・保育を評価いただけていると感じた。</p> <p>2. 認定こども園の教育・保育内容の充実：子どもたちが自分らしく安心してあそび込める環境作り、子どもたちが自分の欲求を満足できる活動として、運動あそび、ECC英語活動を導入し好評だった。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実：一時保育利用の延べ人数は前年度を下回ったが、緊急を要する利用ニーズにたいねいに細やかに対応することができた。子育てサロンOlympiaをはじめ体験保育、母親講座などの利用はリピーターも多く、口コミで評判が広がり、延べ利用者数は過去最高となった。</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上：一人ひとりの職員が課題・目標をもって保育にあたることができた。キャリアアップの研修を受け、職員への処遇改善の充実が図られ、職員の働きがいに繋がっている。</p> <p>5. 関係団体との連携：キリスト教保育連盟、聖公会保育連盟の研修・大会等に積極的に参画し理解を深めた。</p>			
研修	[内部]認定こども園教育・保育要領の理解・実践、子どもの人権学習、事例研究会、オリンピアの理念理解、接遇マナー [外部]新任職員研修、アレルギー対応、食育研修、赤ちゃん学講座、乳児保育、保護者支援、統合保育理解、感染症対応、リスクマネジメント研修、保育教育要領改訂ワーキンググループ、キリスト教保育連盟大会、聖公会保育連盟大会		
見学・実習	神戸松蔭女子学院大学管理栄養学科(2)、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科(2) 頌栄短期大学(2)・夙川短期大学(1)		
ボランティア	ワークキャンプ(中学生8名、高校生3名)、トライやるウィーク(4中学校10名、親和中学校24名) 入園希望親子・一時保育利用希望親子等見学者多数		
行事	進級式、入園式、礼拝(毎週水曜日合同礼拝、イースター、ペンテコステ、花の日、収穫感謝、クリスマス)・健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査)・同園会(2回)・七夕のつどい・プールあそび・お泊り保育・タベのつどい・ぶどう狩り・グランパママのつどい・運動会・芋ほり・ハロウィン・生活発表会・クラス懇談会・卒園式・園外活動・クッキング活動 他		
取得資格			

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 中久木 康弘
事業目標	1. 健全財政の安定化 2. スタッフ研修の充実 3. 子育て支援施設としての機能の充実 4. キリスト教保育に則り一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実		
総括			
<p>2017年度は、キリスト教保育を基盤として、子どもの情緒を安定させ、子どもの主体を大切にする保育を全員で確認をして3年目を迎え、スタッフにも浸透し充実した保育をすすめることができてきた。また、各クラスやスタッフ間のコミュニケーションを良くするために、会議体に「中堅スタッフ会議」「クラス責任者会議」を新たに創設したことにより、スタッフ間の連携が強まった。財政面では過去2年間支出の中身を吟味し抑制することで予算を上回る収支差を確保してきたことを継続させることにより安定をさせることができた。子育て支援施設の働きは、昨年度同様に行政との関係が良好であり、昨年度以上の参加者を得ることができた。</p>			
事業評価			
<p>1. 健全財政の安定化: 収入は、運営費の加算率が積算時点より2%上がったこと、処遇改善Ⅱの加算で運営費が予算より1000万円増となった。支出については人材(保育士)を採用するため業務委託料、雨漏りや台風20号による被害等による修繕費等が出てしまったが、雨漏り台風被害については保険から補填があったため、予算を上回ることができた。2. スタッフ研修の充実: 昨年同様、個々の職員にとって望ましい研修の受講と内部勉強会の充実により、全員がより同じ方向性を持つことができた。</p> <p>3. 子育て支援施設としての機能の充実: 今年度も子育て支援事業を昨年度の内容を継承して実施した結果、毎回キャンセル待ちが出る昨年度以上の参加者を得ることができた。また、行政の福祉コーディネーターとの関係も密になり、2018年度もより多くの参加者が望まれる。</p> <p>4. キリスト教保育に則り一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実: 充実のためには、常に自分たちの保育を確認することが必要で、毎月の職員会や聖公会保育園でのキリスト教保育の一つひとつを確認した。</p>			
研修	<p>[内部] 新入職員研修・新入職員OJT・危機管理研修・人権研修・キリスト教保育について・普通救命講習</p> <p>[外部] 社会福祉の改正について・児童相談所と保育園の連携・新制度施行の現状・クレーム対応</p> <p>保健師と保育園との連携・専門性のある保育士講座・特定給食施設研修会・食育フェア</p> <p>障がい児保育・保育内容研修会・子どもの主体を大切にする保育研修・食生活フェア・キリスト教保育</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[実習] 親和女子大学(3)・湊川短期大学(1)</p> <p>[ボランティア] 福祉体験学習(ワークキャンプ) 神戸甲北高校(2)・北神戸中学校(3)</p> <p>トライやる・ウィーク 北神戸中学校(5)</p>		
行事	<p>入園式・進級式・お誕生会・イースター礼拝・家族の日礼拝・親子遠足・花の日礼拝・お泊りキャンプ</p> <p>乳幼児保育参観・敬老の日の集い・運動会・ブドウ狩り・私保連北ブロック青空保育・保育園パサー</p> <p>ミカエル教会バザー・子育て支援センター体験保育・収穫感謝祭(ハロウィン)・クリスマス会</p> <p>お餅つき・私保連よいこの集い・大きくなったよの集い・お別れ遠足・お別れパーティー・卒園式</p>		
取得資格			

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 人材育成による資質の向上		
総括	<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、8年目を終えることが出来た。今年度、人材の育成・予算管理の難しさを非常に学ばさせられた。事業収支としては、開設当初以来の厳しい結果で終わってしまい、法人に多大な負担しか残せなかったことを痛感させられている。今後の事業運営において、この痛みを糧として忘れず、次年度以降の巻き返しに繋げていきたい。今回の厳しい結果の要因としては、新規事業として、新しい部門を二カ所立ち上げ、実働を開始したが、スタートダッシュが切れなかったこと、また、既存の部門も含めて、6部門の内、5部門が新任管理者ということもあり、施設長として上手く、フォローアップ出来ていなかった部分が大きく影響している。次年度、スクラップ&ビルドで、より強固な事業所として復活し、健全な経営に戻すところから始めていきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門、LSA事業の神戸市社会福祉協議会から受託している地域支援部門、他にも専門職を地域に派遣する等して、総合的な福祉活動を展開してきた。特養の稼働率が年間を通して、99%台で推移したり、県外事業の実働では評価出来るが、新設部門のスタートダッシュが切れず、展開の弱さを痛感させられた。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 今年度は、新設部門が2カ所実働に至った為、前年度比104.9%アップ207,966(千円)であったが、総支出も111.6%増え、事業収支は、マイナス11,861(千円)と、惨憺たる結果となってしまった。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ: 県外事業を開始したり、公民館での地域との取り組み等、積極的に実践している。4. 小規模多機能ケアの確立: 利用者おひとりおひとりに対して、施設でのケアで完結するのではなく、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続出来る支援を行った。</p> <p>5. 人材育成による資質の向上: リーダー会や外部研修等、研修への参加による、自己研鑽の機会を取り入れた。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・高齢者虐待防止・身体拘束撤廃研修</p> <p>[外部] 介護支援専門員従事者研修・喀痰・吸引研修・栄養士会研修・介護士会研修・相談員会研修・LD理解のための基礎と実践講座</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>兵庫県立明石西高等学校 インターアクト倶楽部(6)・神戸須磨の浦女子高等学校(3)・神戸市立玉津中学校(3)・神戸市立高津橋小学校(2)・神戸栄光教会(2)・明石聖マリア・マグダレン教会(6) 傾聴ボランティア(10)・地球と行動委員会(3)・園芸倶楽部(6)・たまみ会(4)・神戸市社会福祉協議会ワークキャンプ(4)・牧羊幼稚園の園児との交流会(26)・フラダンス(6)・フットケア(1)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・音楽療法教室・夕涼み会・健康野菜市・一閑張り教室・母の日クッキング・父の日・音楽教室コンサート・LSA地域コミュニティ支援・ご家族懇談会・ドライブ・お茶会・映画鑑賞・美術館の芸術鑑賞・農業収穫体験・玉津南公民館給食会・お話しべちゃえ・高齢者料理教室・ふれあい祭り 健康チェックコーナー・BBQ・クリーン作戦・防災訓練・盆踊り大会 他</p>		
取得資格	<p>介護支援専門員(1)、介護福祉士(1)小規模多機能・計画作成担当者(1)、認知症実践者研修(1)</p>		

事業報告

2017年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフと資質向上とチャレンジ 4. 地域の拠点作り				
事業評価					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援する事に力を入れてきた。今年度は訪問に力を入れ利用者・家族の希望される生活の実現を目指した。今年も年間を通して人材不足が続き、大勢での外出へはあまり行けなかったが、利用者の希望に応じて、近隣の公園までお散歩に出掛けたり、外食やお茶へ行ったり、理美容の付き添い、お出掛けの送迎・付き添い等、その人らしい暮らしの実現の支援を積極的に取り組んだ。</p> <p>2. 財政基盤の確立:24名からのスタートであったが、営業を重ね、徐々に数字が上がっていった。最終的には、27名で終えた。年間収入84,703(千円)、予算に対し、103.5%達成率で、次年度に繋げていきたい。</p> <p>3. スタッフの資質向上とチャレンジ:ベテランの正社員が退職となり、新規採用した正社員を中心にフロアをーから再構築し、利用者おひとりおひとりに合った関わりを模索し、チャレンジを実践することができた。</p> <p>4. 地域の拠点作り:音楽教室やヨガ教室、野菜市等の一般参加型プログラムや体験利用や緊急宿泊を実施し、高齢者が気軽に足を運べる環境と困った時に寄り添える環境を準備し、拠点を担えるようにチャレンジしている。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える 2. 財政基盤の確立 3. 人材育成とスタッフの定着を図る 4. 地域共生				
事業評価					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:オリンピックの理念のもと、入居者の方と生活を共にすることで入居者皆様の気持ちや要望、体調の変化等に対して、気付き、寄り添うことができるようになってきたと思われる。入居者のご家族より感謝の言葉を頂戴したこともあった。オリンピックのケアがユニットに浸透し、入居者、ご家族の皆様に関わりつつあることを実感している。</p> <p>2. 財政基盤の確立:今年度の収益は予算に対してプラス1.3ポイントと達成することができた。年間稼働率99.6%と過去最高の稼働率を記録できたことは評価できる。しかし、紹介手数料や人件費が予想以上に掛かったことで活動費用が予算に対してプラス11.3ポイントと支出が増えたことは反省すべき点である。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着を図る:介護福祉士所持者や喀痰吸引研修修了者が増えてきている。また、毎月、委員会や勉強会を行うことで職員の意識は高まっている。今後もスタッフの定着、質の向上に尽力する。</p> <p>4. 地域共生:地域との相互交流も定着し、地域の一員として受け入れられていると感じている。特養職員が料理教室の講師や地域のイベントで健康チェックを行い、地域に貢献していることは評価できると思われる。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 地域の介護相談窓口としての役割 2. 他部門や地域との連携 3. 居宅介護支援の質の向上 4. 財政の安定				
事業評価	<p>1. 地域の介護相談窓口としての役割: 地域住民の方に、相談窓口としての認識は持って貰っているが、職員の退職や引継ぎの不十分さもあり、窓口としての役割としては弱かった。それでも、地域住民や民生委員・自治会からの相談が時折あり、サービスや契約に繋がる事例も幾つかあった。今後はこれらの繋がりを強めていきたい。</p> <p>2. 他部門や地域との連携: 地域との連携について、例年と比較すると弱くなってしまったが、公民館や病院・あんしんすこやかセンターに営業に出向いたり、地域の諸行事に参加し、事業所や法人のPR活動に努めた。スケールメリットを生かし、利用者の紹介、業務の協力を多く行った。今後も他部門や地域との連携を強めていきたい。</p> <p>3. 居宅介護支援の質の向上: 前任者の休職・退職に伴う引継ぎの不備、書類提出の遅れに加え、スタッフの体調不良・退職もあり、その対応に追われ、チームとしての資質向上に力を向けることが出来なかった。但し、そのような中で、各種の研修に参加する等して、個々の資質向上には取り組めた。今後は、全体の資質向上に繋げたい。</p> <p>4. 財政の安定: 管理者の着任、増員により、定員枠を上げたものの、新規利用者の獲得がうまくいかず、大きく予算割れする結果になってしまった。明石との合併を機に、利用者の獲得を急ぎ、早期に財政の安定を図りたい。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1. 新天地の開拓、新規事業として地域に入っていく 2. 財政基盤の確立 3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う				
事業評価	<p>1. 新天地の開拓、新規事業として地域に入っていく: 初めての県外進出事業である。昨年、4月に開設の認可をおろしたものの、現地での職員採用が叶わず、一旦休止になっていた。その後も継続的に活動を進めてきた結果、漸く、10月より現地でのケアマネジャーの採用が実現し、実働が始まった。全てにおいて初めて尽くしの上に神戸の法人本部から非常に離れているということもあり、地域との繋がりを支えに進めてきたが、フォローしきれず管理者の退職により、再度、休止状態に戻ってしまっている。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 他府県への進出・事業拡大に際し、現地採用で、管理者兼ケアマネジャー1名の体制で、定期的に応援に行くという体制で取り組み、3ヶ月で15件の新規利用者の獲得したことは、順調なスタートを切ることができ、地域からの期待度の高さを改めて実感させられた。</p> <p>3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う: 地域の高齢者に対して行われている諸行事への参加やヨガ教室の開催等での、地域のコミュニティ支援をPR活動に定着させていこうと、繋がり作りを始めていたが、結果的には、業務多忙を招いてしまい、負担になっていた。期待が大き過ぎた分負担を大きくしてしまい、休止に戻ってしまったことを反省している。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の高齢者の相談窓口としての位置づけを確保する 2. 地域の在宅支援を他部門と連携して行う 3. 人材確保と事業所の拡張 4. 財政の安定				
事業評価					
<p>1. 地域の高齢者の相談窓口としての位置づけを確保する。:地域での知名度が低く、職員も地域に馴染んでいないからのスタートでしたが、事業所への営業や講習会などに積極的に参加し、オリンピック明石のアピールをしていき徐々に相談件数も増加してきました。今後も誠実・迅速な対応を行っていきます。</p> <p>2. 地域の在宅支援支援を各部門と連携して行う。:圏域の地域包括支援センターをはじめ地域の関わりを持ち、法人内でも横の繋がりで協力をしてもらいながら活動できました。今後も連携を強めていきたいです。</p> <p>3. 人材確保と事業所の拡張:常勤換算1.5名でのスタートでしたが、業務内容、実績など思わしくありませんでした。又新規事業でヘルパー部門も11月に立ち上げはしたものの、期末には兵庫との合併が決まり、営業の見直しの必要さを痛感しました。今後はどう活動していかなければいけないかを課題にし取り組みます。</p> <p>4. 財政の安定:地域でのオリンピック明石の認知度を上げながら活動してきましたが、予算額には大きく達成出来ませんでした。今後は考え、活動しながら安定した財政を確保できるように、情報収集・チャレンジをもち、業務に励んでいきます。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック明石	部門	ヘルパーステーション	報告者	西川 晃
事業目標	1. 地域に根付いた拠点の確立 2. 新しい事業への挑戦 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化				
事業評価					
<p>1. 地域に根付いた拠点の確立:明石市に事業所を開設し3年目を迎え、少しでも地域に還元される事業活動として、また、在宅支援全般に携われるよう、11月より事業開始に至った。これで、ケアマネジャーによる相談だけでなく、隣接する明石市にも迅速にオリンピックのヘルパーを派遣、地域にしっかり根を下ろせる仕組みに繋いだ。</p> <p>2. 新しい事業への挑戦:将来的には明石市に高齢者総合施設オリンピック明石を作ることを目標に据え、現在の居宅支援事業所に併設する形で、スタートさせた。オリンピック神戸西との協力体制のもと、小規模多機能の訪問介護と連携し、人員配置を創意工夫し、利用者の状況に合わせて、柔軟に対応できる体制をとった。</p> <p>3. 財政基盤の確立:法人内のスケールメリットを生かして、スタートダッシュを見込んでの予算を組んだが、人員配置で連携が上手くいかず、予算案の34.1%の1,262(千円)しか、収入が伸ばせなかった。営業活動と新規開拓の取組み、PR活動の遅さ等が影響し、今後の活動の上で、大幅な見直しが必要だと痛感させられた。</p> <p>4. 広報活動の強化:年頭に病院や地域包括支援センターを含め、近隣の居宅介護支援事業所以外にも、積極的な広報活動を強化することを掲げていたが、時間管理、優先順位等含めて、上手く立ち回れなかった。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けを確立していく 2. 担当圏域のコミュニティの支援を他の部門と連携しながら積極的に行う 3. 今津高層住宅の自治会との協働 4. 財政の安定				
事業評価	<p>1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立していく:シルバーハウジング入居者への支援。生活相談、安否確認を業務としてきた。独居高齢者の孤立化を予防するための、新たなコミュニティ作りを求められ、個別の誕生日会の開催や、ボランティアによる演奏会を実施した。居宅介護支援事業所等の専門機関との橋渡しや、緊急時の対応を実践した。2. 担当圏域のコミュニティの支援を他の部門と連携しながら積極的に行う:神戸市の委託事業としては、今年度一杯で終了となる。前事業者の撤退後を引き継いだところから始め、開始当初は、苦勞の連続であったものの、次第に住人との関係も改善でき、事業終了に際し、今津高層住宅自治会から、神戸市へ当法人の残留願いを出して頂けた程、非常に良好な関係作りにも繋がった。オリンピック神戸西の出先機関として、光朔会の後押しを受けつつ、コミュニティ作りの役割を果たし、介護保険利用にも繋がった。</p> <p>3. 今津高層住宅の自治会との協今津高層住宅の自治会との協働 :前述のとおり、非常に良好であった。</p> <p>4. 財政の安定:収入に関して、年間の委託費が4,100(千円)。それに加え、年間数万円の助成金事業も実施してきた。コミュニティ作りとして講演会やグループワーク、茶話会を2カ月に1回の割合で、開催出来た。</p>				

施設	都児童館	報告者	館長 森下洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
総括	<p>オリンピアの理念を軸とした行動を全職員がとれるように、毎日全員で確認した。基本を大切にすることが利用者との信頼関係に繋がると確信した。親子プログラムに関しては、それぞれの親子さんが満足できるように努めた。</p> <p>なかよしひろばでは母親がリフレッシュできるプログラムを毎月実施した。児童館行事では、一般来館児童だけではなく、放課後児童クラブの児童(児童館・コーナー)、地域の方が一緒に参加できるように配慮できた。</p> <p>コミュニティ事業では、地域の方の協力が大きく、それによってプログラム自体が活気にあふれた。保護者とのコミュニケーションについては、積極的にとる努力ができた。職員間の情報の共有、報・連・相については子どもたちのために、スムーズに仕事を進めるためにいかに大事かということを伝え続けた。</p>		
事業評価	<p>1. 行事プログラムに関しては、異年齢児や地域の方と交流できるよう配慮し、集団モラルを学べるように職員の共通意識のもと、遊びの提供ができた。また、集団の中のそれぞれの「個」を大切にできたと思う。</p> <p>2. 親子館事業の各プログラムを通して、母親の仲間づくり、居場所づくりに配慮し、子育ての悩みを抱え込まないように母親の心に寄り添うようにした。</p> <p>3. 集団生活の規律を守ることの大切さを自覚できるように支援するように努めた。また、児童館行事への参加を通して色々な児童と交流する中でも、協力・寛容ということを意識づけた。今後学年に応じた自立につなげたい。</p> <p>4. 地域の方が楽しめるプログラムの実施をし、地域の方が利用しやすい場の提供をすることができた。</p> <p>また、子育てコミュニティ事業を通して地域の方と親子や児童など異世代間交流ができるプログラムを提供した。</p> <p>5. 日々の活動を通して気づきや、振り返りを大切にできたと思う。ひとりひとりがこれで良しと満足することなく次年度、更なる成長ができるようにする。職員間の意思の疎通を今まで以上に図れるようにしていきたい。</p>		
研修	館長研修・コーナー長研修・指導員研修・放課後児童クラブ支援員研修 キッズサポートスタッフ研修・専門相談研修		
見学・実習 ボランティア	・トライやるウィーク(中学生4名) ・ワークキャンプ(高校生3名)		
行事	すこやかクラブ・キッズクラブ・なかよしひろば(赤ちゃんタイム、一歳児タイム、ママのリフレッシュタイム、子育てママのティータイム)・学童お誕生日会・学童合同行事・毎月の行事(お菓子作り工作など)・灘区児童館合同行事(3回)・子どもフェスタ・集中学習会・コミュニティ事業(夏まつり卓球大会・都作品展・都作品展・餅つきと昔遊び・ミニしめ縄作り・ひなまつり会・輪投げ大会)		
取得資格			

施設	就労支援センター・発達障害者サポートセンター・障害者グループホーム	報告者	センター長 大地あけみ
事業目標	1. 新スタッフ体制の構築 2. 利用者支援の向上 3. 作業を含めた日中活動のあり方 4. 地域でのネットワーク構築		
総括	<p>年度初めより、作業支援、スタッフの体制面においてゼロからのスタートとなった。利用者及び職員においても信頼関係を築くには多くの時間を要した。利用者の不安を最小限に抑えること、オリンピアの理念に沿ったより良い支援を目標とし各々が手探りながらも同じ方向を見て連携を図ってきた。岩屋は、11月に実地指導が行われ指導を受けた。利用者支援の礼儀を欠いた結果が招いたことであり、職員はそれぞれに反省をし同じことを繰り返さないよう互いに注意喚起を促す。新たな事業展開として、10月より「障害者グループホームオリンピア長峰」がスタートした。入居希望者及び体験希望者などたくさんの問い合わせがあり、共同生活援助の必要性を痛感した。就労継続支援B型に加え共同生活援助の運営、オリンピアが目指す障害者支援の幅が広がった1年となった。</p>		
事業評価	<p>1. 月1回の会議は達成することが出来ず、問題点があがる度に話し合いの場を持った。非常勤の職員との情報共有がスムーズに行えず、問題が起こって初めて知るようなこともあり業務日報に目を通す習慣をつける。</p> <p>2. 一人一人のエンパワーメントを引き出す為、小さなことも見逃さないよう観察力を高め相談等の時間を持った。発語が少ない利用者も筆記などで意思表示が出来るよう関係性を大切にしてきた。作業支援だけに限らず、社会見学やレクリエーション等の屋外での支援、習字や描画の芸術面で感性を磨く支援なども幅広く取り入れてきた。</p> <p>3. これまでの軽作業に加え清掃作業や複数の農作業を取り入れ、能力別に複数の作業を同時進行させたり、出来ないと思っていたものに挑戦することで自信に繋げてきた。また、家族から計算が苦手で買い物が出来ないという声を聞いた際は小銭が使えるよう学習時間を設け、実生活に結びつくことによって家族にも成長を感じてもらえた。</p> <p>4. 地域活動として、神社清掃を週1回、地域の街作りに参加、カフェを開いてぜんざいを無料で振る舞う等地域住民に障害者やオリンピアを知ってもらう機会を作ってきた。地域の方がボランティアで関わってくれている(2名)</p>		
研修	<p>[内部]若手リーダー育成研修 ・障害者虐待防止法勉強会</p> <p>[外部]思春期発達障害の基礎理解と教育的支援 ・あんしんすこやかセンター研修</p> <p>・精神保健支援者研修 ・相談支援専門員従事者研修 ・発達障害事業所研修会</p> <p>・兵庫・生と死を考える会講演会 ・障害者虐待防止法講習宝塚) ・サービス管理責任者研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>・日本聖公会神戸教区小林尚明主教様見学 ・神戸東ロータリークラブ ・北浜みどり県議会議員</p> <p>・青陽東養護学校高等部3年実習 ・青陽東養護学校中学部2年(生徒・保護者・教員見学)30名</p> <p>・なだ障害者地域生活支援センター ・就労移行支援ワンモア三宮 ・しごとサポート東部</p> <p>・f☆pro</p>		
行事	<p>・いちご狩り(北区二郎) ・野菜市(丹波) ・せいようフェスティバル ・なだびと喫茶</p> <p>・light it up blue世界自閉症啓発デー ・花の日礼拝 ・収穫感謝祭</p> <p>・社会見学(神戸青少年科学館・有馬温泉・京都太秦村・森林植物園・京都鉄道博物館・ポーリング等</p> <p>・岩屋カフェ ・たき火カフェ ・まんまるケっぺい ・発達障害特別支援カフェ ・CS神戸販売会</p>		
取得資格	サービス管理責任者(3名) ・甲種防火管理者(2名)		

事業報告

2017年度

施設	障害者就労支援センター	部門	オリンピック岩屋	報告者	大地あけみ
事業目標	1. 新スタッフ体制の構築 2. 利用者の支援向上 3. 作業を含む日中活動のあり方 4. 地域でのネットワーク作り				
事業評価					
<p>1. 昨年度末のスタッフの異動や退職により、体制を立て直すことからのスタートとなる。業務分担や役割、スタッフのそれぞれの思いが一つとなるにはたくさんの時間を要した。意見を出し合う中にも、「理念」と「三つの約束を忘れず」前だけを向いてきた。結果、最高の仲間ができチームワークの大切さを知ることができた。</p> <p>2. 障害者のエンパワーメントを引き出す支援を見直した。利用者には、それぞれに特性も能力もみんな違って当たり前であるにも関わらず、作業の多様性が乏しいことに気がついた。室内の軽作業はもとより、事業所外の農作業や清掃作業も取り入れることによって色々な体験や経験を生かす機会を作る。</p> <p>3. 来所時、退所時の挨拶や作業中の報告・連絡・相談ができるよう指導する。作業能力も大事ではあるが、他者とのコミュニケーションによって心地よい居場所になることを話す。また、作業だけでなく全員で協力し作り上げる「お誕生日会」などを設けたり、屋外でのレクリエーションを利用者で話し合い計画をした。</p> <p>4. 黒豆が収穫できた際、地域でお世話になっている人達に配った。グランドゴルフ、新年会や餅つきなどに参加する。地区長様より空き地を無償で借りることができ、新年度からは花を植えたり野菜を作る楽しみができた。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	尾上 忠志
事業目標	1. スタッフ間の連携強化 2. 利用者支援の向上 3. 法人内連携による作業強化 4. 地域でのネットワーク作り				
事業評価					
<p>1. スタッフ間の連携強化：岩屋、住吉、10月以降は長峰を含めた障害部門での連携を強化してきた。職員間の交換研修やパート職員の異動、住吉で初となる特別支援カフェを開催するなど、スタッフの連携によって行うことが出来た。</p> <p>2. 利用者支援の向上：これまで不十分だった個別支援計画を全メンバー分作成し、1人ひとりと向き合うことを重視した。自主製品の制作や農作業、岩塩封入や紙折りなど様々な経験を通して就労継続に繋げていくことを念頭に支援を行った。</p> <p>3. 法人内連携による作業強化：前年に引き続き篠山の農作業で収穫した黒豆の販売やデイサービスでの交流、法人内施設での各種記録の印刷や清掃作業など数多くの作業や交流を持った。特に清掃作業は灘、篠原、中央と3施設で行い、作業工賃の向上にも繋がった。</p> <p>4. 地域でのネットワーク作り：呉田ネットワーク会議に参加するようになり、デイサービスの交流会に出向いたり、地域の広報誌の印刷、配達作業を請け負うようになった。来年度以降も継続していく予定である。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	長峰	部門	グループホーム	報告者	尾上 忠志
事業目標					
事業評価					
<p>2017年10月1日(日)より社会福祉法人聖隷福祉事業団より事業継承し、グループホームオリンピア長峰として事業を開始した。オリンピア初の障害者グループホームとして入居者3名で開始し、11月にオリンピア岩屋のメンバーが入居したことで2017年度末時点で入居者4名となっている。年度途中から事業を開始したため事業目標が空欄となっているが、オリンピアの理念と3つの約束を踏まえ、オリンピア長峰を利用される入居者ご本人が輝いて暮らせるよう支援を行っていく。</p> <p>事業開始半年で1名入居があったことは大きかった。しかしあと1部屋を体験利用としては運用しているものの入居まで繋げることが出来なかった。来年度早々に現在3名体験で利用されている方やオリンピア長峰を必要とされる方への入居に向けて動いていく。また約20年間聖隷福祉事業団から引き続き勤めていた住み込みの世話人退職に伴い、4月より通いの世話人が勤めることとなる。この引き継ぎによる入居者、職員への負担が最小限になるよう1人ひとり保護者を含めた懇談を行う予定である。その中でオリンピアとしての方針やケアを明確にし、オリンピア長峰に関わるすべての人が安心して過ごせるグループホームを提供していく。</p>					

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 地域交流、イベント開催 4. 安全で安心できる住宅環境を目指す		
総括			
<p>サ高住においては入れ替わりもよくあったが、長期間に渡って空いたままの部屋もあり、課題を残した。デイサービスもその影響があり、数字を伸ばすことが難しかった。ヘルパー部門は外部への仕事量が増加した。</p> <p>秋からは毎週土日にカフェをオープンし、入居者の方の寛ぎの場として、好評である。また、ご要望に応じてのイベントを開催し、喜んで頂けた。</p> <p>鶴甲のチームとして、ケア内容の意思統一が図れていない部分があり、より良いサービスを提供していく為に課題として挙げられる。</p>			
事業評価			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供: オリンピアがこれまで築いてきた地域や関係機関との良好な関係を継承し、オリンピアの理念に基づいたサービス提供を心掛けてきた。しかし全スタッフへの意思統一が図れていない部分があり、ケア内容には課題が残った。</p> <p>2. 財政基盤の確立: サ高住においては常時満室という形を作れず、長期間に渡って空いている部屋もあった。デイ部門はその影響もあり、後半は数字が伸び悩んだ。ヘルパー部門は外部の依頼が増加している。</p> <p>3. 地域交流、イベント開催: 地域交流の一環として、秋からカフェをオープンした。また、夏祭りやぶどう狩りを実施し、入居者の方に生活を楽しんで頂く様に取り組んだ。</p> <p>4. 安全で安心できる住宅環境を目指す: 入居者の方に「オリンピア鶴甲を利用して良かった」と思って頂ける様に、日々環境整備に取り組んだ。</p>			
研修			
見学・実習 ボランティア	トライやるウィーク受け入れ		
行事	夏祭り、ぶどう狩り 毎週土日カフェオープン		
取得資格			

事業報告

2017年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	住宅部門	報告者	小幡文則
事業目標	サ高住の入居率を100%にし、安定した収入を確保する。また、カフェの収入も25,000円を目標にして、顧客の誘致をお願いする。また、入居待ち者を増やしていくことにする。				
事業評価					
<p>本年度は、退所者が多く常に空室が出来るという状況であった。入居待ちも少なく、埋めるのに苦戦した。</p> <p>あんしんすこやかセンターや病院へ営業へ伺うも効果があまりなく、チラシを配布する程度の効果しかなかった。</p> <p>また、初めてのバザ-を夏に開催し、近隣の方への、アピールをした。ベトナムからの女性職員たちにも、手伝っていただき、フォーなどの食べ物などを提供できた。売上もそこそこあり、成功したといえる。</p> <p>また、鶴甲で念願のカフェをオープンし、利用者の方に喜んでいただけた。今後は、売り上げを伸ばす努力をしていきたい、メニューの考案等を考えたい。年度末に、米谷氏のご紹介でご夫婦の入所が決まり、もう1室の入所も決まった。今後の課題としては、入居待ちをいかに増やしていくかということである。情宣の方法を考えたい。</p> <p>来年度は、常に満室の状態を保ちながら、入居待機者の確保、各種イベントを主催し、予算を達成したい。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ヘルパーステーション	報告者	下地正樹
事業目標	1. ホームヘルプ ケア確立 2. 人材育成 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化				
事業評価					
<p>1. ホームヘルプケアの確立:利用者様 一人ひとりが尊厳あるこれまで通りの生活を送るお手伝いを利用者様目線で、その人らしい暮らしを続ける事が出来るよう進めました結果、多くの方が鶴甲ファンになって頂けたのではないかと、実感しております。より一層のケア向上に努めます。</p> <p>2. 人材育成:ヘルパー同士で、ケアについて検討し、今必要なケアを提供できるように進めて、相互援助の中から、ケアの向上を図っています。</p> <p>3. 財政基盤の確立:利用者様のケア安定のため、外部居宅介護支援事業所に訪問し新規利用者様の獲得を進めました。期間を要しましたが、後半には外部の方が半数を超えました、問い合わせも引き続きありますので対応できる 体制をとり、案内を継続しております。しかし、ケアの集中しておられた方の退所等が有り実績を伸ばすには至らない結果となっております。来期も引き続き、居宅介護支援事業所・あんしんすこやかセンターにPRを継続致します。</p> <p>4. 広報活動の強化:ポスティング・居宅・あんすこを、訪問し 鶴甲のファンを広げています。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	デイサービス	報告者	富原 実治
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業評価					
1. 財政基盤の確立					
登録利用者数を増やし実績を上げることが目的のひとつでもあり外部利用者数増には繋がったが					
予想以上にサ高住の方々の介護度が上がりそれに伴い他のサービス優先となりデイ利用を減らさざるを得ない状況となってしまった事が結果として出ている。外部利用者数増における送迎や利用時間等の問題を考えながら今後につなげていく。					
2. サービスの質の向上					
小規模デイサービスの特色を活かし、利用者おひとりおひとりのニーズのお応えするというオリンピックの理念に基づき、その方らしい暮らしができるお手伝いをスタッフ全員で把握、認識をして行うことができていた。					
3. 人材確保の確保・育成					
人材確保が困難な状況の中、派遣に頼ることが多かったが現在は終了し直接雇用のみとなっているので継続しそれぞれが、オリンピックのスタッフとしての誇りを忘れず従事できる体制を保つ。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2017年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	居宅介護支援	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 財政基板の確立 2. 介護支援専門員としての資質の向上 3. 地域交流、他事業所との連携 4. 介護予防ケアマネジメントを行う				
事業評価					
1. 財政基板の確立: あんしんすこやかセンターや病院及び、近隣の介護関係の事業所との連携を意識して取り組んだ。その結果、新規利用者をたくさん獲得することが出来た。ただ、書類関係を整備することが出来ておらず、関係各期間にも迷惑を掛けることとなってしまった。					
2. 介護支援専門員としての資質の向上: オリンピアの理念を実践し、利用者の方が住み慣れた地域で安心して過ごして頂けるよう、介護支援専門員としてのスキルアップに取り組んだが、上記のように書類関係を整えることが出来なかった。					
3. 地域交流、他事業所との連携: 圏域のあんしんすこやかセンター連絡会や灘区のえがおの窓口連絡会に参加し、灘区内の地域資源や情報を収集していく事により、利用者の生活の質の向上につなげていった。					
4. 介護予防ケアマネジメントを行う: あんしんすこやかセンターから委託を受け、灘区等への方への介護予防マネジメントの提供を行った。					

社会福祉法人光朔会

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケアの確立」 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括	<p>オリンピア篠原は3年目を迎え、更に地域に根ざしたホームとなった。生活の場として住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを送る場として、高齢者介護の拠点として君臨している。地域の行事に積極的に参加し、地域の方々の介護の相談窓口として、オリンピア灘や鶴甲とともに、灘区の認知症ケアの拠点となっている。第三者評価では3年連続来られた評価機関の社長から「オリンピア篠原の3年間の確実な成長が感じられました。」と非常に高く評価していただいた。オリンピア篠原は次年度以降も地域に根ざしたホームとして、入居者の皆様とは地域に出て行き、地域の方々には気軽に来ていただける環境を整えることで、地域の方々と共に生きていく。それとともに、常に新しいことにもチャレンジし続けていきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 「認知症ケアの確立」;「オリンピアの理念・3つの約束」に基づいたケアの実践に努め、オリンピアの認知症ケアをスタッフ一人ひとりが意識し、入居者お一人おひとりの「その人らしい」暮らしのお手伝いできた。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 地域の方々から案内頂いた行事に積極的に参加した1年であった。また、地域の民生委員の方々の見学や、地域住民からの入居に関するご相談を受けることが度々あり、それが入居に繋がっている。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 1年間入院者が少なく、安定した利用率であったことがそのまま収入の安定につながった。また、入居待機者を常時2~3名確保し、法人内の施設で待つ頂くなど、法人内の関係、情報交換が取れた。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦: 保険外のプログラムとして、入居者様、ご家族様希望の1泊旅行を企画実施した。今後も、入居者様の夢や希望の実現のお手伝いをしていきたい。</p> <p>5. 人材の育成: 新人、中堅職員がそれぞれのキャリアや希望に応じて、積極的に法人内外の研修に参加し、ケアの質の向上を意識付けることができた。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員(トレーニング合宿・研修・OJT)・若手リーダー育成研修・認知症ケア・感染症対策 ・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・成年後見</p> <p>[外部]・認知症介護管理者研修・市民救命士・キャリアアップ研修・神戸市コンプライアンス研修 ・「生と死を考える会」講演会・発達障害理解のための基礎と実践講座・灘区他職種勉強会</p>		
見学・実習	<p>[見学]・入居希望見学・居宅介護支援事業所・民生委員</p> <p>[実習]・外部評価員訪問調査実習</p>		
ボランティア	<p>[ボランティア]・厳島神社だんじり・都賀川を守ろう会・フラダンス・お歌の会</p>		
行事	<p>・誕生日会・運営推進会議・ご家族懇親会・ご家族懇談会・第三者評価・消防設備点検、避難訓練 ・花見・イースター・母の日・父の日・世界自閉症啓発デー・灘区だんじり祭・さくら祭り・淡路島旅行 ・敬老のお祝い・葡萄狩り・オリンピア鶴甲バサナー・クリスマスリース作り教室・クリスマス会・チェロコンサート・ページェント・厳島神社節分祭・新年会・雛祭り</p>		
取得資格	<p>・介護福祉士・介護職員実務者研修・市民救命士</p>		

施設	オリンピア篠原	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 認知症ケアの確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成				
事業評価	<p>1. 認知症ケアの確立:「オリンピアの理念」「3つの約束」を礎とするオリンピアの認知症ケアを実践することにより、入居者様お一人おひとりに自己決定していただき「パーソンセンタードケア」の理論に基づいた「その人らしい」くらしを支えるケアを目指すことができた。</p> <p>2. 地域密着の浸透:地域で行われるだんじりや桜祭り、そして厳島神社のお祭りなど、地域の方々にお誘いを受けた行事に参加することができた。また、近隣にお住まいの方から入居相談を受け、実際にご入居に結びついた方もおられ、見学や相談を度々受けるようになっている。</p> <p>3. 財政基盤の確立:年間稼働率98.4%とほとんど入院者を出すことなく、安定した収入を得ることができた。一番の要因は早めの通院や主治医との連携で早期対応できたこと。また、入院された方も早期退院に向けて医療とご家族との連携を図ることができたことが大きい。</p> <p>4. 人材の育成:中堅職員、新入職員それぞれが課題を持ち、スキルアップを図るための研修を各自で選び参加した。また、資格取得に向けての勉強も個々で行っており、法人内外の研修、講座に積極的に受講している。</p>				